

2 マメ科混播の割合（推奨範囲）及び栽培方法

（１）マメ科混播の割合（推奨範囲）

草種名	播種量 (kg/10a)
オーチャードグラス（基幹草種）	2.0～2.5
シロクローバー	0.3
チモシー（基幹草種）	1.5～2.0
アカクローバー	0.2～0.4
チモシー（基幹草種）	2.0
シロクローバー	0.3
オーチャードグラス（基幹草種）	1.5～1.8
ペレニアルライグラス	0.8～1.0
シロクローバー	0.3
ペレニアルライグラス（基幹草種）	2.0～2.5
オーチャードグラス	1.0
シロクローバー	0.2～0.3

（２）栽培方法

混播における草種組合せは、基幹草種と補助草種に分けて考える。基幹草種は利用目的に適合し、かつ安定的に生産性を維持できる特徴を有し、補助草種は基幹草種の生産性及び利用上の欠点を補う役割を果たすものとする。

○混播組合せの手順

草種・品種の組合せ選定に当たっては草地の利用目的、家畜の種類、草地管理の集約及び維持年限の外、補助草種を加える場合には次のようなことにも留意する。

※アカクローバは2～3年で消失するので、その後のマメ科率維持のためのシロクローバ（播種量0.2～0.3kg/10a）を加える。